

**機器本体操作説明編**

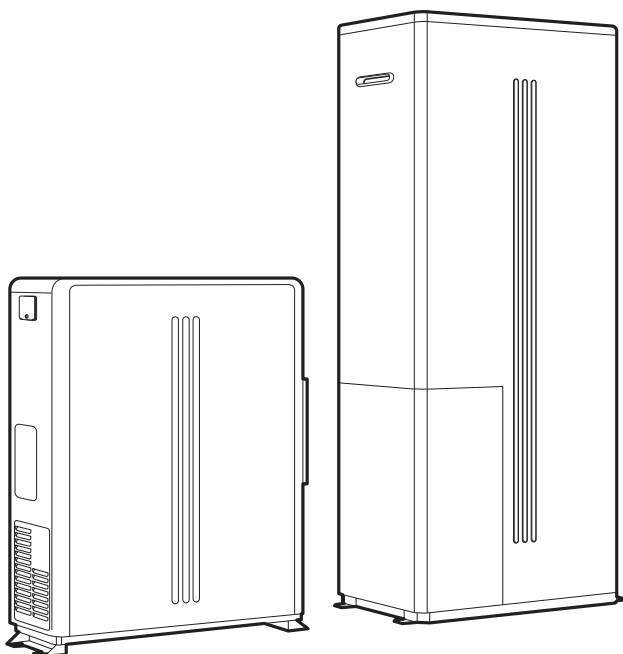
燃料電池ユニット

NQ-0716ARS-K 型形式名 TM1-AG-NF
(都市ガス13A)

貯湯ユニット

NQZT-C16ARS-AWC 型

形式名 FCG-204-D



このたびは、固体高分子形燃料電池コージェネレーションシステムをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

- ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお使いください。お読みになった後は大切に保管し、おわかりにならないことや、不具合が生じたときにお役立てください。
- この説明書は燃料電池ユニット本体と貯湯ユニット本体操作に関する内容を記載しています。
リモコンについては、別冊のリモコン操作説明編の取扱説明書を参照してください。
- フルサポート証は販売店からお受け取りになる際に、必要事項が記入してあるか必ず確認してください。
- 取扱説明書を紛失された場合は、担当のメンテナンス会社またはもよりの東邦ガスにご連絡ください。
- 製品改良により、本体・仕様などが説明書の内容と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

も く じ

ページ

特 長	2
エネファーム(家庭用燃料電池システム)とは	3
安全に正しく使用していただくために	5
各部の名称	13
設置状態の確認	15
ご使用前の準備と確認	16
凍結のおそれがあるとき (凍結予防)	18
災害時などに貯湯タンクからお湯を取出す	21
故障かな?と思ったら (安全装置、運転中に誤動作したときは、異常時の処置方法)	23
長期間使用しない場合	25
日常の点検・手入れのしかた (点検・手入れの際のご注意、点検・手入れの準備、点検、手入れ)	25
仕 様	30
アフターサービス	32

ご使用の前に

必要なときに

こんなときは?

地震や火災が起きた!

運転を停止する。

➡ 異常時の処置方法

24ページ

貯湯タンクのお湯を取出す。

➡ 災害時などに貯湯タンクからお湯を取出す

21・22ページ

凍結を予防したい

機器内の配管やふろ配管を保温する。

➡ 凍結予防装置による方法

18ページ

機器内の水を抜く。

➡ 貯湯ユニット内の水を抜く方法

19・20ページ

長期間不在にする

凍結のおそれがない場合、48時間以上使用しないときは不在停止を行う。

➡ 不在停止

「リモコン操作説明編」の「運転しないようにする」参照

凍結のおそれがある場合、1ヵ月以上使用しないときは機器内の水を抜く。

➡ 貯湯ユニット内の水を抜く方法

19・20ページ

調子が悪い、故障かな?

修理を依頼する前に確認する。

➡ 故障かな?と思ったら

23・24ページ

または、「リモコン操作説明編」の「故障かな?と思ったら」参照

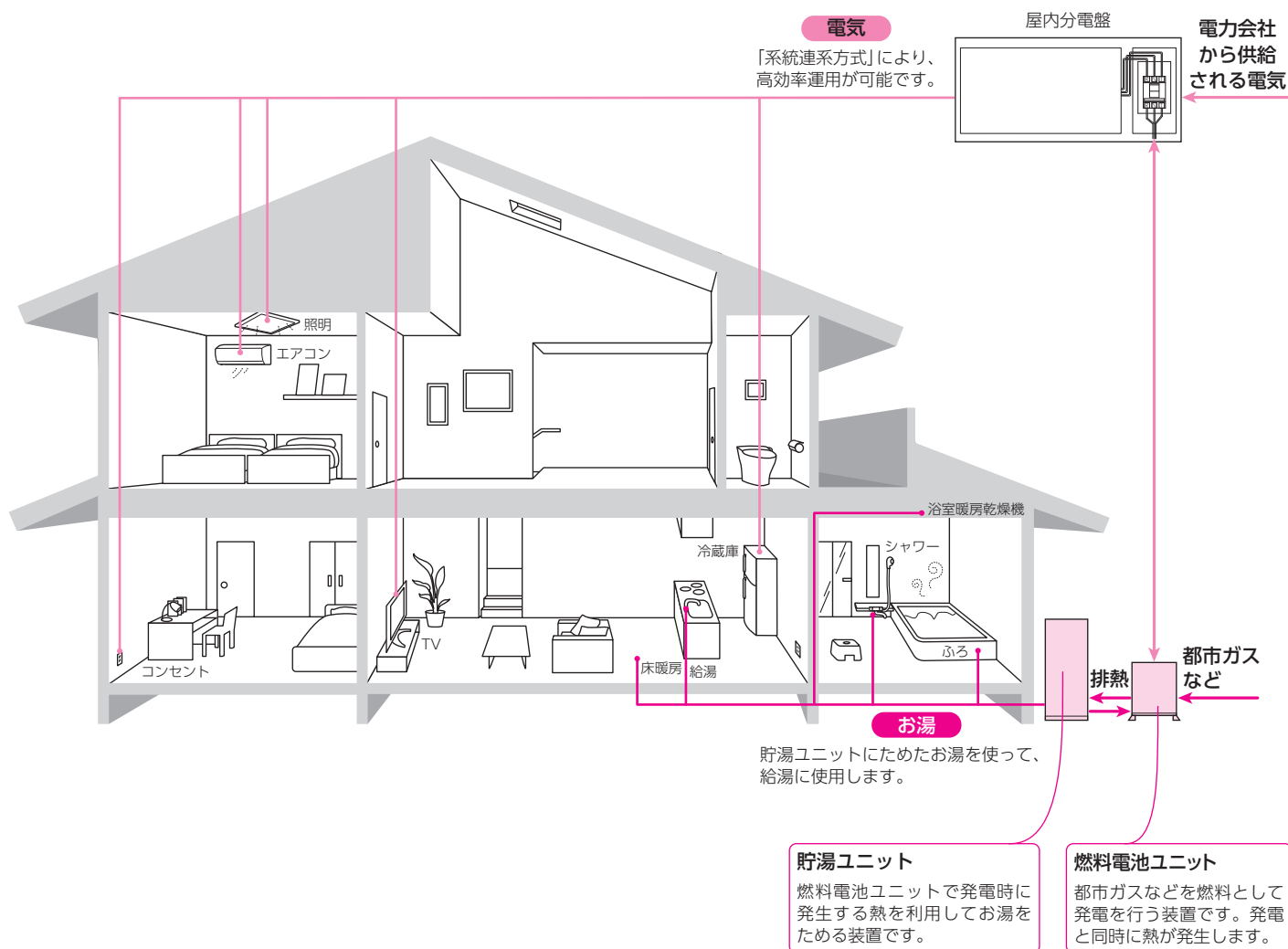
特 長

- 燃料電池ユニットで発電した電気が使用できます。
- 燃料電池ユニットで発電したときに発生する排熱を利用して、貯湯タンクにためた水を沸かし、給湯に利用します。
- 家庭内の電気とお湯の利用状況に応じて、自動的に燃料電池ユニットで発電したり、停止したりします。

<省エネ運転>

- お湯の使用量が少ない時期(夏場など)は省エネ性を考慮し、その日のうちは発電しない場合もあります。
- リモコンの表示と音声で電気と熱の利用状況をお知らせします。<エネルギー機能>
- お湯が足りないときはバックアップ給湯器でお湯を沸かすことができます。
- 断水時や地震など万一の災害時は、貯湯タンクのお湯(水)を生活用水として利用できます。

21・22ページ



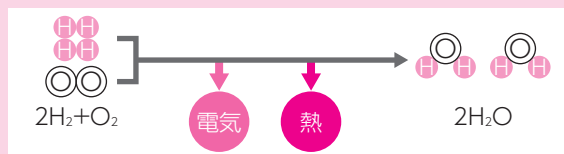
エネファーム(家庭用燃料電池システム)とは

発電のしくみ

都市ガスから水素を抽出し、酸素と反応させて発電します。同時に発生する熱でお湯も沸かして給湯できるので効率的です。

電気化学反応のイメージ

- セルスタックの中で水素と空気中の酸素を反応させて、直流電気を発生します。

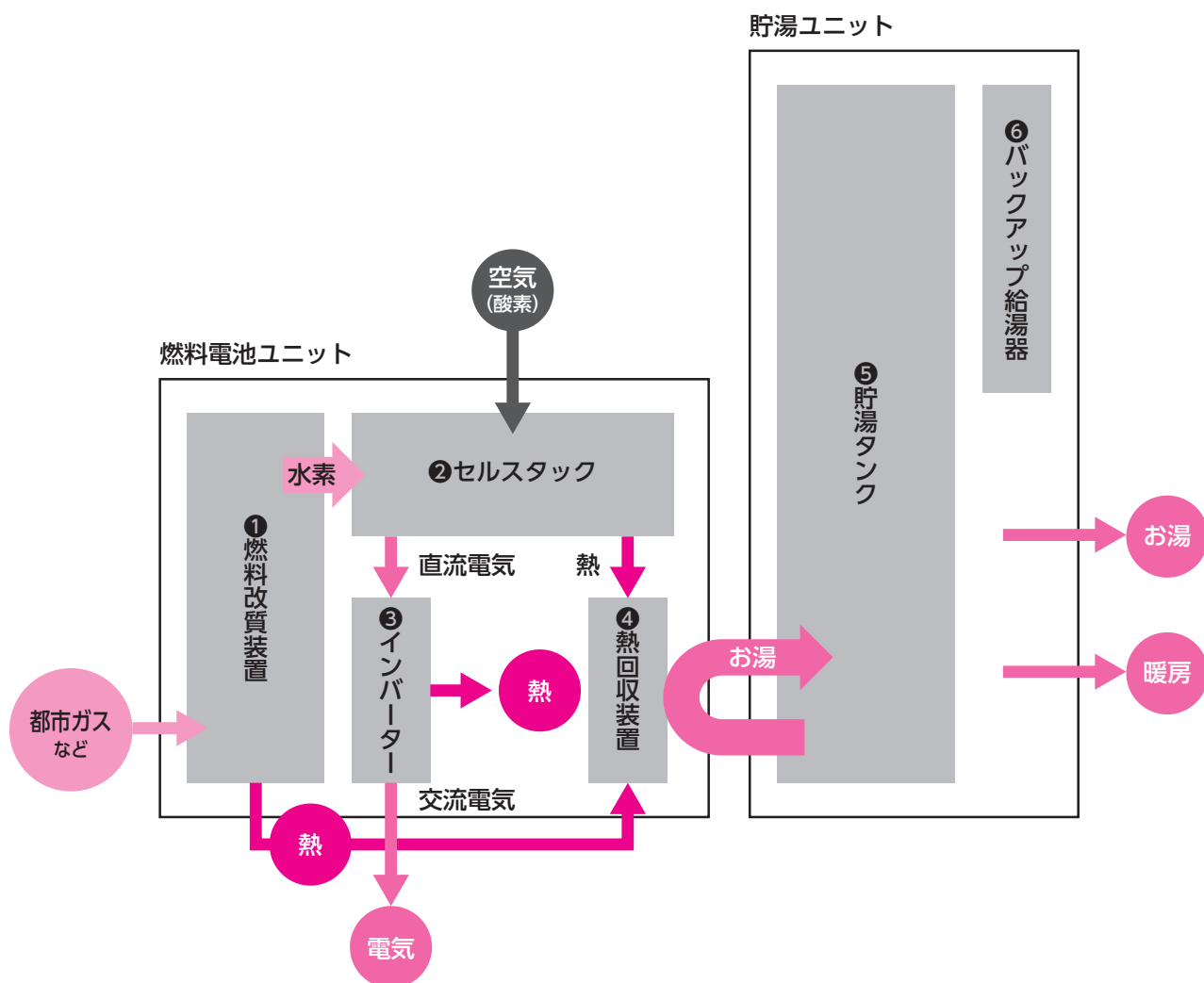


システムの構成

作り出した電気と熱をご家庭の電気機器や給湯に利用することができます。

ご使用の前に

必要なときに



①燃料改質装置

都市ガスなどから水素を抽出します。

②セルスタック

水素と空気中の酸素を使って直流電気をつくるのと同時に熱を発生させます。

③インバーター

発生した直流電気を交流に変換します。

④熱回収装置

セルスタックや燃料改質装置から熱を回収し、お湯を作ります。

⑤貯湯タンク

回収したお湯をためておき、給湯需要があるときに供給します。

⑥バックアップ給湯器

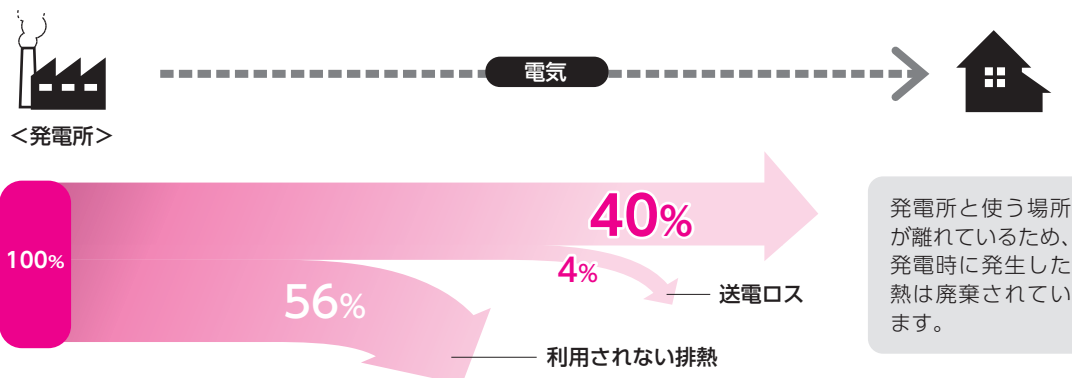
貯湯タンク内のお湯で足りない場合、ガスでお湯を沸かします。

エネファーム(家庭用燃料電池システム)とは

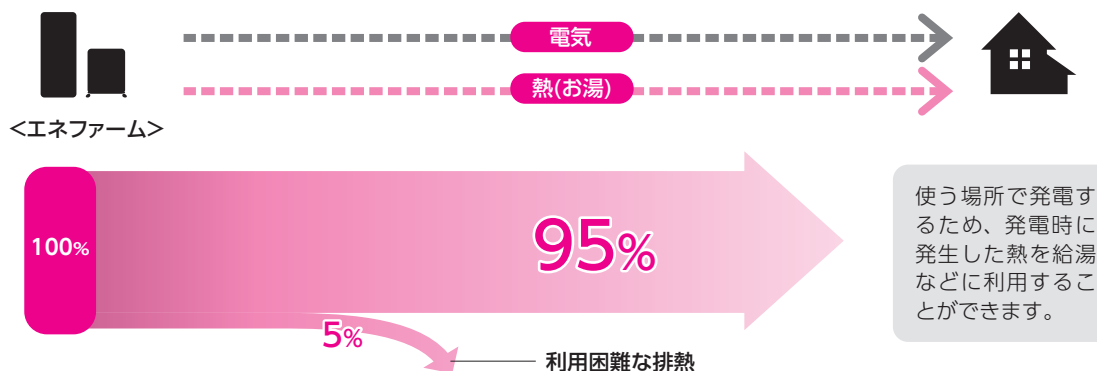
エネルギーの利用効率

- 電気を使う場所で発電するので、送電ロスがありません。また、従来の発電方式では捨てていた発電の際に発生する熱もお湯として利用できるので、エネルギーを効率よく使えます。
- 同じ量の電気と熱を使う場合、これまでよりCO₂の排出が少なくなります。

従来のシステム



エネファーム



安全に正しく使用していただくために

- ここに示した事項は、危害・損害の程度によって次のように分類されます。
いずれも安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。

 危険	人が死亡、重傷を負う危険、火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容です。
 警告	人が死亡、重傷を負う可能性、火災の可能性が想定される内容です。
 注意	人が軽傷を負う可能性、物的損害の発生が想定される内容です。
お願い	安全に快適に使用していただくために、理解していただきたい内容です。

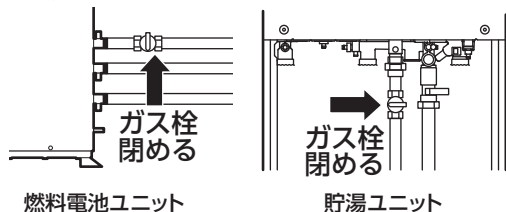
- お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

	禁止 「してはいけない」内容です。
	注意 「注意しなければならない」内容です。
	実行 「しなければならない」内容です。

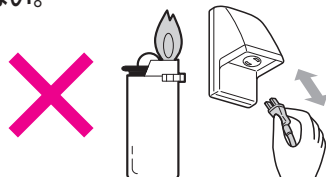
危険

ガス漏れに注意する (引火による火災や爆発の原因)

-  ●ガス漏れに気づいたときは、すぐに使用を中止して次の処置を行う。
1. ガス栓を閉める。
 2. 販売店またはもよりの東邦ガスに連絡する。



-  ●絶対に火をつけたり、電源プラグの抜き差しはしない。



屋内や浴室に設置しない

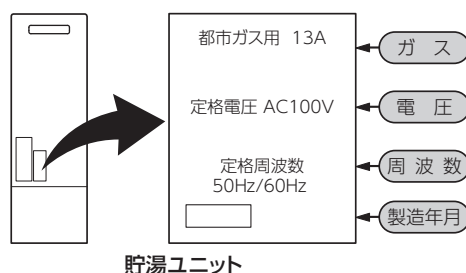
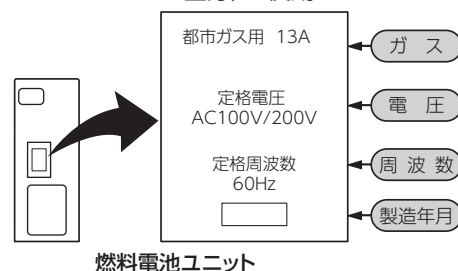
-  不完全燃焼を起こし一酸化炭素中毒の原因になります。

警告

ガスの種類・電源を確認する

(火災・不完全燃焼・爆発着火・故障の原因)

-  必ず機器の銘板に表示してあるガスの種類(ガス種・ガスグループの区分)で使用してください。



安全に正しく使用していただくために

警告

異常時の処置（火災や感電の原因）



運転中に異常を感じたり、地震や火災などの緊急の場合は次の処置を行ってください。

この処置を行った場合は使用できません。

ガス漏れの場合は、絶対に火をつけたり、電源プラグの抜き差し、電気器具の「入・切」はしないでください。

1 ガス栓を閉める

配管カバーを取り付けている場合は、配管カバーを外してください。 **25 ページ**



燃料電池ユニット

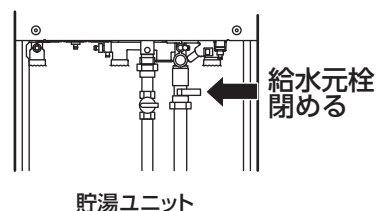
貯湯ユニット

2 燃料電池ユニット用専用ブレーカーと貯湯ユニット用分岐ブレーカーを「切」にする

緊急の場合以外は台所リモコンの表示がすべて消灯してから行ってください。

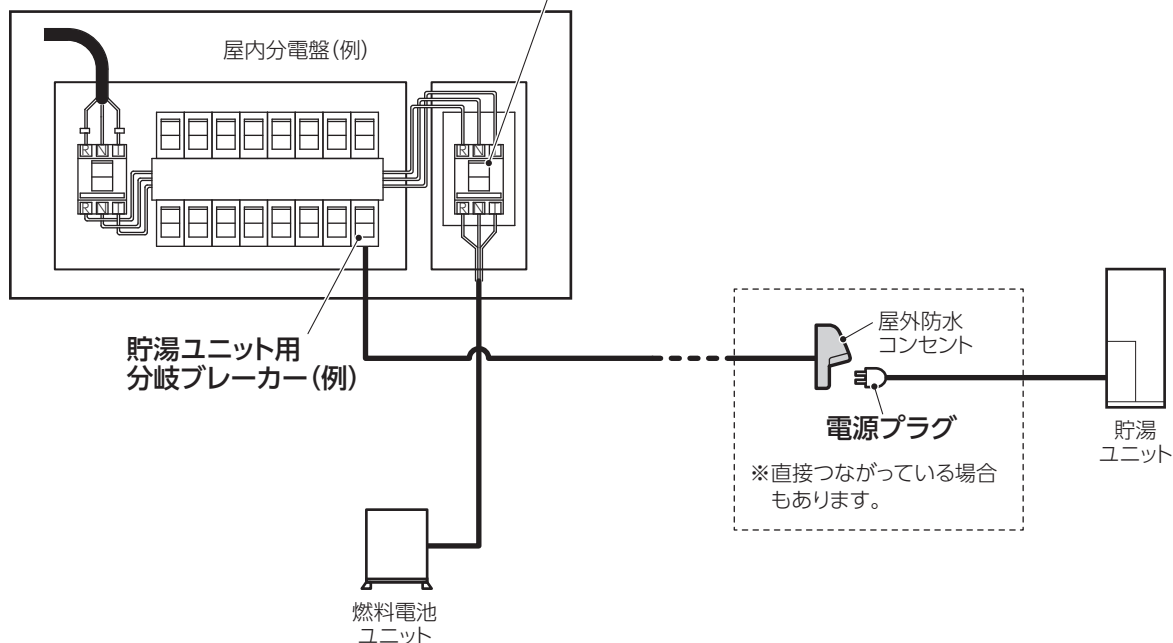
貯湯ユニットの電源を屋外防水コンセントから取っている場合は、電源プラグを抜いてください。

3 給水元栓を閉める



4 担当のメンテナンス会社に連絡する

燃料電池ユニット用専用ブレーカー（例）



機器の廃棄に関する注意（事故の原因）



担当のメンテナンス会社またはもよりの東邦ガスにご相談ください。

太陽熱温水器とは接続しない



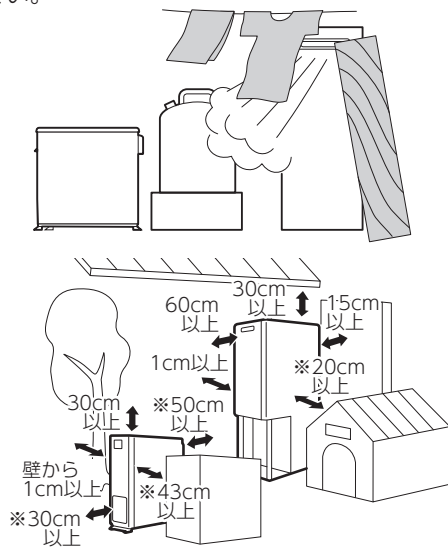
ご希望の温度より高い温度のお湯が出てやけどのおそれがあります。

警告

可燃物に注意する (火災の原因)



- 機器や排気部の周囲に紙や木材など燃えやすい物を置かない。
可燃物がある場合は図の離隔距離を守ってください。



※はメンテナンススペースとして必要な距離です。
なお、設置形態によってはメンテナンススペースを小さくできる場合があります。

引火のおそれがあるものに注意 (火災の原因)



- 機器や排気部の周囲にガソリンやベンジンなどの引火のおそれがあるものを置いたり、使用したりしない。

スプレー缶やカセットこんろ用ボンベを置かない

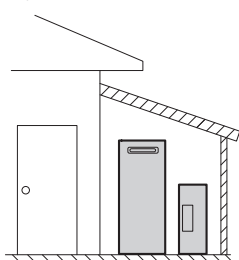


- 機器や排気部の周囲にスプレー缶やカセットこんろ用ボンベを置くと、スプレー缶内の圧力が上がりスプレー缶が爆発するおそれがあります。

囲い禁止



- 設置後、増改築などにより屋内状態にしない。
機器や排気部を波板やビニール、塗装時に使用する養生シートなどで囲わないでください。不完全燃焼による一酸化炭素中毒や火災の原因になります。



やけどに注意する



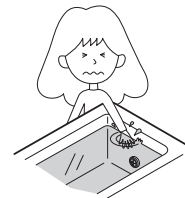
- シャワーを使用するときや入浴するときは、必ず手でお湯の温度を確かめる。
夏期は給水温度が高いため、設定温度よりも熱いお湯が出る場合があります。貯湯式のため、ON/OFFスイッチが「OFF」でも熱いお湯が出る場合があります。



- シャワー使用中は使用者以外の人がお湯の温度を変更しない。
使用者以外の人がお湯の温度を変えたり、ON/OFFスイッチを「OFF」にしたり、「優先」を切り換えたりすると、突然熱湯や冷水が出て、やけどや思わぬ事故の原因になります。



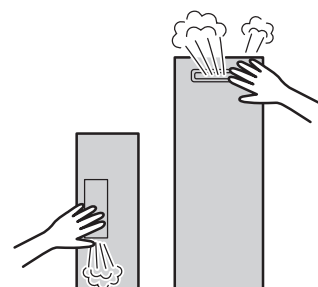
- 沸き上げ中や沸き上げ直後は循環アダプターから熱いお湯が出るので注意する。
- 浴そうのお湯を洗面器などで充分にかき混ぜてから手でお湯の温度を確かめる。



- 床暖房の上に長時間座ったり寝そべったりしない。
低温やけどを起こすおそれがあります。
特に次のようなかたが使用する場合はまわりのかたが注意してください。
- ・乳幼児や自分の意志で体を動かせないかた
- ・疲労の激しいかた
- ・お酒や睡眠薬を飲まれたかた
- ・皮膚や皮膚感覚の弱いかた



- 使用中や消火直後の機器の排気部には手を触れない。
高温になっています。



安全に正しく使用していただくために

警告

貯湯ユニット内のお湯を排水するときはやけどに注意する



高温水が排水されることがありますので必ず冷めてから排水してください。

入浴時はふろ循環アダプターに注意する

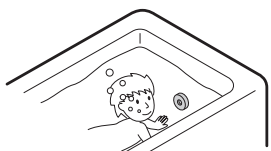


●子どもを浴そうで遊ばせたり、子どもだけで入浴させたりしない。
(事故やけがの原因)

●お風呂にもぐらない。

(事故の原因)

髪の毛などが吸い込まれることがあります。
特に小さなお子様には注意してください。



●ふろ自動・追いだき・たし湯中は循環アダプターに近づかない。

熱いお湯が出ますのでやけどのおそれがあります。

●循環アダプターのフィルターをはずして使用しない。

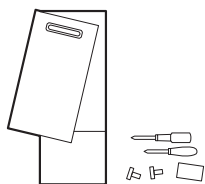
(故障の原因)



お客様ご自身で設置・移設・分解・修理をしない (火災・感電・事故の原因)



この機器のガス配管はねじ接続です。ガス配管の接続工事には専門の資格、技術が必要です。ユニットの設置・移設・付帯工事・修理をする場合は必ず担当のメンテナンス会社に依頼してください。
分解や改造を行わないでください。



移設など	必要な電力会社への手続き
増改築による移設の場合 (電気の使用場所に変更のない場合)	変更手続き
引越しによる移設 (電気の使用場所に変更のある場合)	引越し前：連系廃止手続き 引越し後：連系申請手続き
引越しなどによる廃止	連系廃止手続き

電源コードや電源プラグ(※)に関する注意



●電源コードに無理な力を加えたり、ものを載せたりしない。
束ねたまま使用しない。
(火災・感電・発熱の原因)

●絶対に電源コードを切断して延長しない。

(火災や感電の原因)

電源コードの届く範囲にコンセントがないときは、電力会社の指定工事店に依頼し、所定の電気配線をしてください。

●電源プラグを濡れた手で触らない。

雨が降っているときに電源プラグを抜かないでください。感電するおそれがあり、危険です。

●コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、たこ足配線はしない。

(発熱による火災の原因)



●電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込む。傷んだプラグや緩んだコンセントは使用しない。

(火災の原因)

●定期的に電源プラグを抜き、ほこりを除去する。
ほこりがたまると湿気などで絶縁不良になり火災の原因になります。

※屋外防水コンセントから通電している場合

電源線を傷めない



電源線に無理な力を加えたり、物を載せたりしないでください。火災や感電の原因になります。

ガス管や機器に無理な力を加えない



ガス管や機器の上に乗ったり、植木鉢などを置いたりしないでください。けがや機器の変形によるガス漏れ、不完全燃焼のおそれがあります。



定期点検を実施する (設備の安全確保)



定期点検は、担当のメンテナンス会社またはもよりの東邦ガスにご依頼ください。

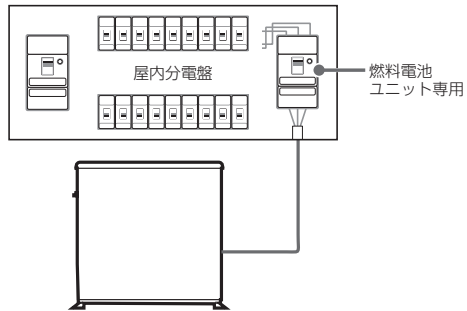
警告

燃料電池ユニット専用のブレーカーが設けられていることを確認する

(事故の防止)



屋内分電盤に「発電設備専用」と、表示されていることを確認してください。



排気部などの開口部に金屑類や燃えやすいものなどを入れない (火災や感電の原因)



給気部や排気部をふさがない

(火災や不完全燃焼の原因)



積雪時には、給気部や排気部がふさがれていないことを確認してください。

機器の排気に顔を近づけたりしない

(一酸化炭素中毒の原因)



安全に正しく使用していただくために

⚠ 注意

電源コードを引張って電源プラグ(※)を抜かない (火災や感電の原因)



※屋外防水コンセントから通電している場合

配管カバーをはずした際の注意



取付け作業終了後には、化粧ねじがしっかりと締まっていることを確認してください。
思わぬ事故の原因になります。

不凍液に注意する



不凍液を万一飲んだ場合はすぐに吐かせ、すみやかに医師の診断を受けてください。

アースを確認する (感電の防止)



アースが不完全な場合は、販売店またはもよりの東邦ガスにご連絡ください。

用途に注意する



一般家庭の給湯・シャワー・追いだき・暖房以外の用途には使用しないでください。
思わぬ事故の原因になります。

指定の機器と接続する



指定の燃料電池ユニットと貯湯ユニット以外の機器と接続しないでください。
故障やけどの原因になります。

固定状態を確認する (事故の防止)



機器がアンカーで固定されていることを確認してください。転倒すると危険です。

機器取替え時の注意



旧機器は専門の業者に処理を依頼してください。

子どもを機器の周囲で遊ばせない



思わぬ事故やけがの原因になります。

床暖房の使用について



- 床暖房の上に電気カーペットを敷かない。
床材の割れ・そり・隙間の原因になります。
- 床暖房に鋭利なものを落としたり、刺したりしない。
温水パイプが破損します。

保護具を着用する (けがの原因)



点検・手入れのときは手袋などの保護具を着用してください。

お願い

入浴するとき

- ふろの空だきをしない。
(故障の原因)
追いだきをするときには循環アダプター上部から約5cm以上の水位を保ってください。
- 入浴剤や洗剤に注意する。
イオウ・酸・アルカリ・油分を含んだ入浴剤や洗剤は、ふろポンプの故障や熱交換器の腐食の原因になりますので使用しないでください。
入浴剤や洗剤の注意文をよく読んでから使用してください。
- 浴そう内で石けんやボディシャンプーを使用しない。
次回使用時に泡が出たり、故障の原因になります。
- 浴そうの循環アダプターを手・足・タオルなどでふさがない。
(故障の原因)
- 浴そうにミカンやレモンなどを浮かべて使用しない。
ポップリなどをご使用の場合は、袋などに入れて使用してください。フィルターがつまり、故障の原因や循環不良になりご希望の温度にならないおそれがあります。

機器内のお湯(水)について

- 機器や配管に長時間たった水や朝一番のお湯は飲用したり調理に使用しない。
雑用水として使用してください。
- 飲用したり調理に使用する場合は必ず沸騰させてから使用する。
 - ・必ず水道法に定められた飲用水の水質基準に適合した水道水を使用してください。
 - ・熱いお湯が出てくるまでの水(配管にたまっている水)は、雑用水としてお使いください。
 - ・固形物・変色・濁り・異臭があった場合は飲用しないですぐに、担当のメンテナンス会社や販売店、またはもよりの東邦ガスへ点検を依頼してください。

地下水・井戸水・温泉水の使用禁止

- 給水は必ず水道水を使用する。
地下水・井戸水・温泉水を使用すると機器内の配管に異物が付着したり、腐食して水漏れすることがあります。

混合水栓について

混合水栓は通水抵抗の少ないもの、またシャワーヘッドは圧力損失の少ないものを使用すると最大湯量は増えます。節水タイプを使うと最大湯量は減りますが、体感にはよくなります。水圧の低い地域では泡沫水栓・浄水器を使用しないでください。やけど防止のためサーモスタット付混合水栓(通水抵抗の少ないもの)の使用をおすすめします。リモコンの給湯温度は湯温安定のため、混合水栓の設定温度より少し(約5℃)高めにして使用すると、混合水栓でご希望の温度にしやすくなります。

機器周辺

- 植物やペットなど、排気ガスによって加熱されると困るものや悪影響を受けるものは置かない。
- 増改築するときは、排気ガスが直接建物の外壁・窓・ガラス・網戸・アルミサッシなどにあたらないようにする。
(変色・破損・腐食の原因)
- 除雪を行う。
積雪や屋根から落ちた雪により給気部や排気部がふさがれないように点検や除雪を行ってください。屋根から落ちた雪が給気部や排気部をふさぐおそれがある場所に設置している場合は、給排気に影響がないように防雪の処置を行ってください。
- 家庭用以外に使用しない。
(事故や故障の原因)
この機器は家庭用です。業務用には使用しないでください。業務用に使用して事故や故障が発生した場合は、保証の対象外になります。
- 給気口の近くで薬剤散布や塗装作業をしない。
(故障の原因)

長期間使用しない場合の処置

48時間以上連続で使用しない場合は「ガス発電・給湯暖房機の全停止(不在停止)」を行ってください。([リモコン操作説明編]の「運転しないようにする」参照)
長期間(1ヶ月以上)使用しない場合、または電源を切る場合は必ず水抜きを行ってください。19・20ページ

断水した場合の処置

- 給湯栓を閉め、リモコンのON/OFFスイッチを押して「OFF」にする。
リモコンに「260」を表示している場合は「故障表示一覧表」に従ってください。
([リモコン操作説明編]の「故障表示一覧表」参照)
- 追いだきをしない。
浴そうのお湯(水)が循環アダプター上部から約5cm以上あっても追いだきはしないでください。
- 使い始めのお湯は調理に使用したり飲んだりしない。
飲用や調理に適さない水が給水配管内にとどまることがあります。

安全に正しく使用していただくために

お願い

電源について

- 緊急の場合以外はブレーカーを「切」にしない。
凍結予防運転のために電気を使用しています。

指定された別売部品以外は使用しない (故障の原因)

必ず指定された別売部品を使用してください。

落雷のおそれがあるときの処置 (故障の原因)

雷が発生したときは、運転を停止し、すみやかに燃料電池ユニットの主回路ブレーカーと貯湯ユニット用分岐ブレーカーを「切」にしてください。 **24ページ**
一時的な過電圧で電子部品を損傷することがあります。雷がやんだ後は、通電させてください。

浴そうや洗面台をこまめに掃除する

銅配管から溶出したわずかな銅イオンと石けんなどに含まれる脂肪酸が反応して洗面用具などが青くなることがあります。

ON/OFF(給湯)スイッチが「OFF(切)」のときはお湯側から水を出さない

お湯を出すときはON/OFF(給湯)スイッチが「ON(入)」になっていることを確認してください。「OFF(切)」のときにお湯側から長時間水を出すと機器内が結露し、電気部品の損傷の原因になることがあります。
シングルレバー式混合水栓の場合は、レバーを完全に水側にセットしてから水を出してください。

ドレン水について

機器から出たドレン水を飲用やペット用の水として利用しないでください。

点火・着火・消火を確認する

リモコンのバックアップ給湯器燃焼表示で点火・着火・消火を確認してください。

停電時の注意

- すべての運転が停止しますので、停電復帰後は必要に応じて運転を再開してください。
- 約24時間以上停電した場合は、現在時刻の設定を行ってください。
(「リモコン操作説明編」の「時刻を設定する」の「日時設定」参照)
- 冬期の場合は凍結予防のため水抜きを行ってください。
19・20ページ

安全装置が作動したときは **23ページ** (火災や事故の原因)

安全装置が作動したときは、この説明書に従って処置をしてください。処置をしないで何度もリセットを繰り返さないでください。
リモコンにエラーコードが表示されている場合は「リモコン操作説明編」の「故障表示一覧表」を参照してください。

凍結予防について

冬期には急な寒波のため貯湯ユニットや配管が凍結して破損することがありますので、凍結予防の処置を行ってください。 **18～20ページ**

ドレン配管のつまりに注意する (故障の原因)

ドレン配管の排出先は大気開放とし、泥や落ち葉などでつまらせないでください。

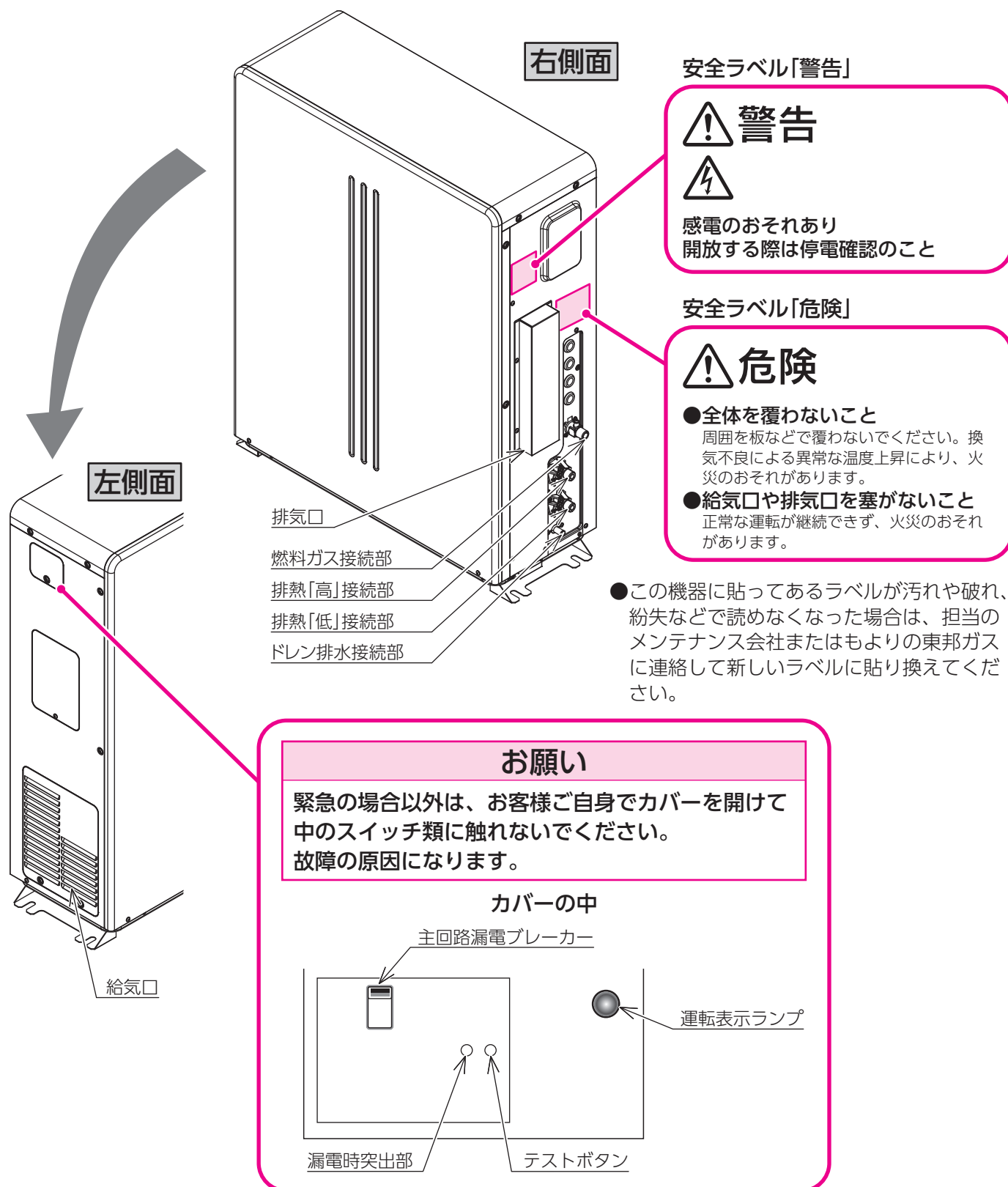
配管バルブを閉めない

メンテナンス作業時以外は、配管バルブを閉めないでください。正常な動作が妨げられ、故障の原因になります。

各部の名称

燃料電池ユニット

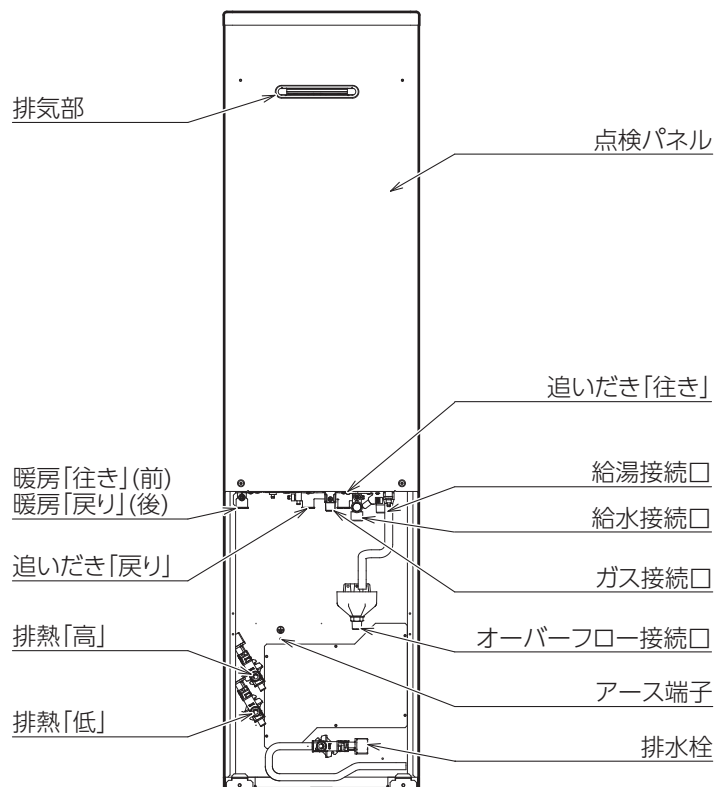
- 給気口は左側面にあります。内部の換気と発電に必要な空気はここから取入れます。
- 排気口は右側面にあります。排気は下方向に排出されます。
- 本体ブレーカー(電源：主回路漏電ブレーカー)は、左側面のカバーの中にあります。
- 発電しているときは、カバーの中の運転表示ランプが緑色に点灯します。
- 起動中や停止中は、運転表示ランプが点滅します。



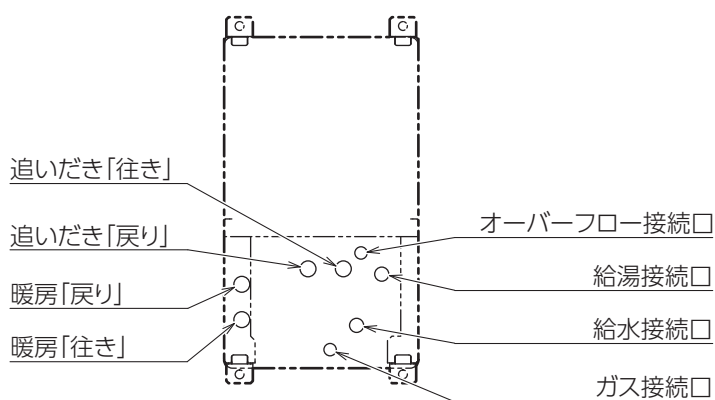
各部の名称

貯湯ユニット

●配管カバーをはずしたイラストです。



機器上方よりの透視図



配管位置図

設置状態の確認

1 設置場所

機器の設置場所は次のことを満たしていることを確認してください。

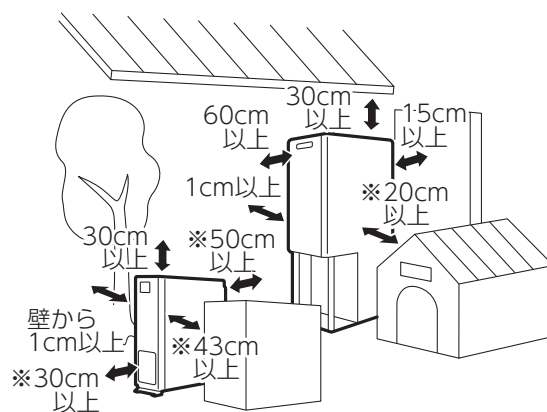
- 水平な場所
- 給気部や排気部の周囲に冷暖房装置や換気扇などの吹出口や吸込口がない場所
- 給気や排気が充分できる場所 (波板などで囲まないでください。)
- 棚の下など落下物の危険がない場所
- 周囲に可燃物や引火性のものがない場所
- 樹脂製の照明器具などに熱があたらない場所
- 給気部や排気部に強い風が吹き込まない場所
- 足場などを組まなくてもメンテナンスができる場所
- 排気部からの吹き出し音や運転音が隣家の迷惑にならない場所
- 階段や避難口から離れた場所
- 排気部から吹き出される排気ガスが建物の外壁や窓にあたらない場所
- 腐食性ガスが発生しない場所
- 積雪や屋根から落ちた雪で給気部・排気部を閉塞されない場所

2 周囲の防火処置

火災予防のため、図を参考に周囲の可燃物から防火上有効な距離をとってください。

(※はメンテナンススペースとして必要な距離です。

なお、設置形態によってはメンテナンススペースを小さくできる場合があります。)



3 排気部の周囲

排気部から吹き出される排気ガスによって、加熱されると危険なものを機器の近くに置かないでください。(ガソリン・ベンジン・灯油・スプレー缶など)

また窓などの建物開口部が近くにはない場所に設置してください。

植物やペットなど、排気ガスによって加熱されると困るものや悪影響を受けるものは排気部の周囲には置かないでください。

また増改築するときは、排気ガスが直接建物の外壁・窓・ガラス・網戸・アルミサッシなどにあたらないようにしてください。変色・破損・腐食の原因となります。

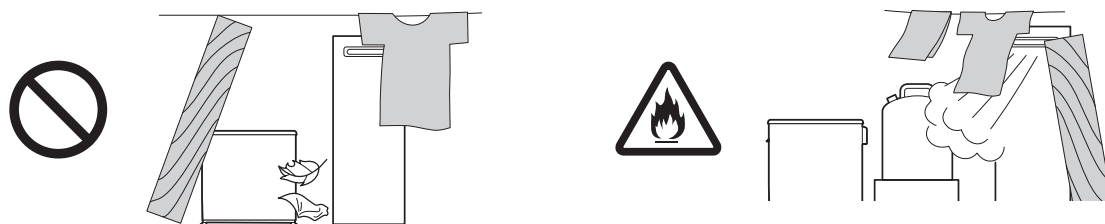


ご使用前の準備と確認

1 機器および周辺の確認

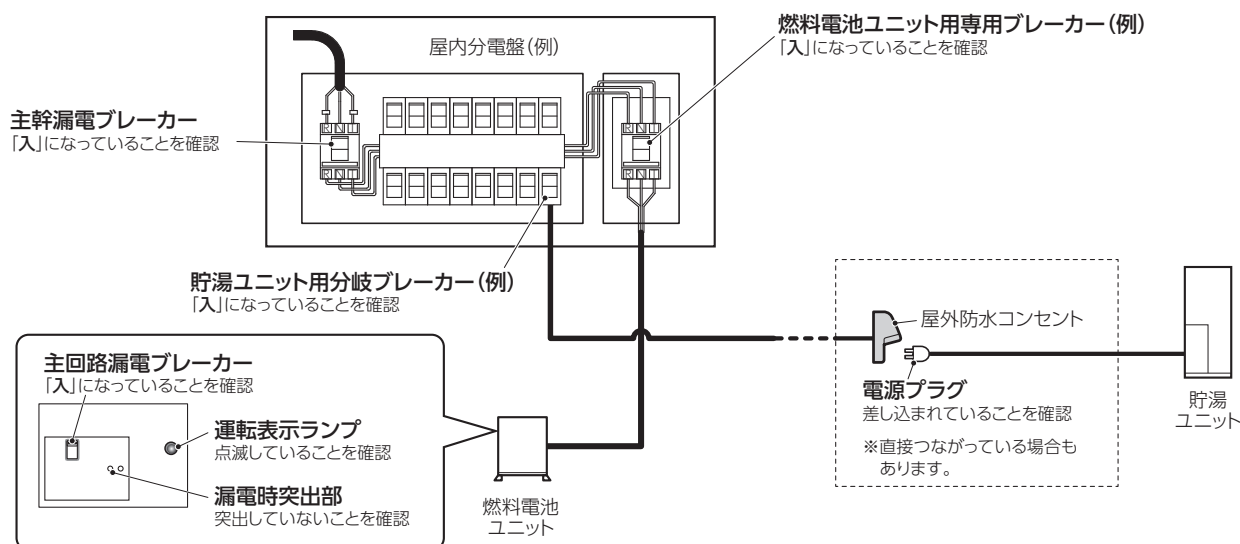
給気部や排気部がふさがれていないことを確認してください。

機器の近くにガソリン・ベンジンなど引火性のものや燃えやすいものを置かないでください。



2 電気の確認

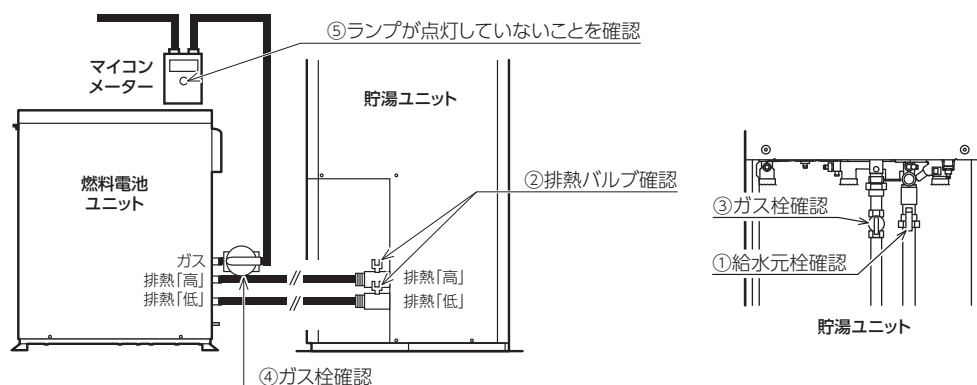
- 屋内分電盤の主幹漏電ブレーカーと燃料電池ユニット用専用ブレーカーが「入」になっていることを確認してください。また、燃料電池ユニット本体のブレーカー（電源：主回路漏電ブレーカー）が「入」になっていること、漏電時突出部が出ていないことを確認してください。
- 燃料電池ユニットの運転表示ランプが点滅していることを確認してください。
- 屋内分電盤の貯湯ユニット用分岐ブレーカーが「入」になっていることを確認してください。
(屋外防水コンセントから電源を取っている場合は、電源プラグが抜けていないことを確認してください。)



3 ガス・水道の確認

- 貯湯ユニットの給水元栓①が開いていることを確認してください。
- 排熱バルブ②が開いていることを確認してください。
- ガス栓③④が開いていることを確認してください。
- ガスの臭いやマイコンメーター指針の異常回転など、ガス漏れのおそれがないことを確認してください。
- ガスのマイコンメーターのランプ⑤が点灯していないことを確認してください。
- 機器および周囲の配管から水漏れなどの異常がないことを確認してください。

リモコンに「260」を表示した場合は、「凍結のおそれがあるとき」の「再使用方法(貯湯ユニットの水張り)」に従って水張りを行ってください。 **21 ページ**



memo

ご使用前に

必要なときに

凍結のおそれがあるとき

凍結予防

●冬期には急な寒波のため機器や配管が凍結して破損することがありますので、凍結予防の処置を行ってください。

■燃料電池ユニット

- 燃料電池ユニットの本体ブレーカー（電源：主回路漏電ブレーカー）を切らないでください。
ブレーカーの位置は「各部の名称」を参照してください。 **13ページ**
- 発電設備専用と表示されたブレーカーや、上位の基幹ブレーカーを切らないでください。
ブレーカーの位置などは「ご使用前の準備と確認」を参照してください。 **16・17ページ**

■貯湯ユニット

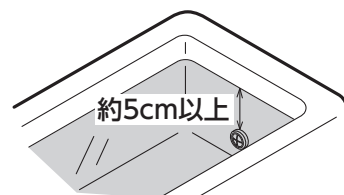
- 停電や電源プラグを抜くなど通電していない場合は、「貯湯ユニット内の水を抜く方法」を参照して水抜きを行ってください。 **19・20ページ**

凍結予防装置による方法(自動)

- この方法は外気温が下がると自動的に貯湯ユニット内の給水経路を保温する凍結予防ヒーターに通電し、浴そう内の水を循環させて配管の凍結を予防します。

お風呂のお湯(水)が循環アダプター 上部から約5cm以上あること

少ない場合は給水してください。



お知らせ

- 凍結した場合は絶対に使用しないでください。故障の原因になります。
凍結がなくなり再使用時はすべての給湯栓(シャワーなどを含む)を開けて水が出ることや、貯湯ユニットや配管から水漏れがないことを確認してください。

貯湯ユニット内の水を抜く方法

- 停電や電源プラグを抜くなどで通電していない場合は、水抜きを行ってください。
- 再使用時は「再使用方法 (貯湯ユニットの水張り)」に従ってください。 [21 ページ](#)
- 水抜きは配管カバーをはずして行い、終了後は取付けてください。 [25 ページ](#)

- 停電している場合は5～7の操作を行った後、排水栓③を開けて、過圧逃し弁④・水フィルター⑤・すべての水抜き栓⑥～⑬を緩めてください。この作業だけでは貯湯ユニットすべての水は抜けません。凍結による破損を緩和させるための処置です。
- 水抜き中は他の運転操作をしないでください。

1. 給湯温度を40℃に設定します。
2. 台所リモコンの貯湯量表示が点灯している場合は、すべての給湯栓を開けてお湯を出します。
台所リモコンの貯湯量表示が消灯し、バックアップ給湯器燃焼表示が点灯することを確認してから3以降を行ってください。
3. すべての給湯栓(シャワーなどを含む)を閉めます。
4. 発電を停止します。([リモコン操作説明編]の「発電する」参照)
 - (1) 台所リモコンのMENUスイッチを押す。
 - (2) 設定スイッチで「発電」を選択し、SETスイッチを押す。
 - (3) 設定スイッチで「発電モード」を選択し、SETスイッチを押す。
 - (4) 設定スイッチで「停止」を選択し、SETスイッチを2回押す。

音声で「変更されました」とお知らせします。
発電していた場合は発電表示がしばらく点滅してから消灯します。
発電表示が消灯していることを確認してから5以降を行ってください。

5. 浴そうのお湯を排水します。
6. ガス栓①・給水元栓②を閉めます。
7. ON/OFFスイッチを「OFF」にしてから、すべての給湯栓(シャワーなど含む)を開け、排水栓③を開ける。
このとき台所リモコンに「260」を表示します。
8. 貯湯タンクの水を抜きます。
 - (1) 台所リモコンのMENUスイッチを押す。
 - (2) 設定スイッチを押して「設定」を選択し、SETスイッチを押す。
 - (3) 設定スイッチを押して「時刻・その他設定」を選択し、SETスイッチを押す。
 - (4) 設定スイッチを押して「タンク水抜き」を選択し、SETスイッチを押す。
 - (5) 「開始/停止」を表示したら、SETスイッチを押す。

リモコンに「00d」と「タンク排水中」を表示します。
1～7の操作を行わずにこの操作を行っても受け付けません。音声で「受付できません 確認してください」とお知らせします。
この操作を行うと水抜きが終了するまで他のスイッチは受け付けません。

9. 過圧逃し弁④・水フィルター⑤をはずします。
※過圧逃し弁と水フィルターはエアチャージ栓を兼ねています。
10. 暖房水抜き栓⑥・暖房ポンプ水抜き栓⑦を緩めます。
暖房回路に不凍液を使用している場合はこの作業は不要です。緩めないでください。
(不凍液を使用している場合は不凍液注意シール「不凍液が入っています」が点検パネルの右側に貼られています。)

お知らせ

- 給水元栓を閉めないと水抜きはできません。

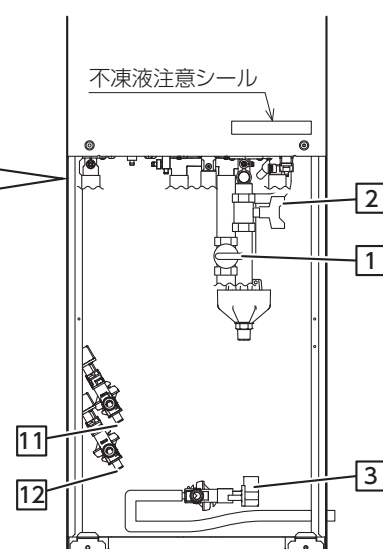
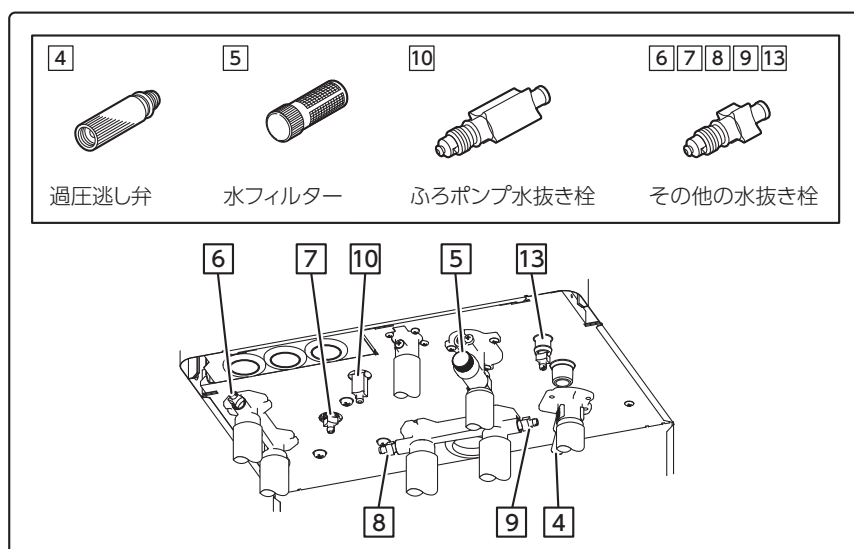
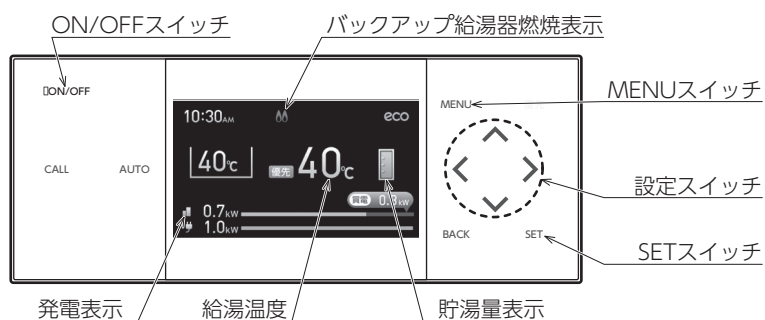
凍結のおそれがあるとき



警告

- やけど防止や配管保護のために必ず冷めてから排水してください。
給湯や暖房運転後、停電時などでも高温水が排水される場合があります。

- 追いだき「戻り」水抜き栓⑧・追いだき「行き」水抜き栓⑨・ふろポンプ水抜き栓⑩を緩めます。
- 排熱水抜き栓⑪⑫を緩めます。
- 中和器水抜き栓⑬をはずします。
- 過圧逃し弁④・水フィルター⑤・水抜き栓⑥～⑬から水が出なくなる、または約1時間後に「00d」が「260」に変わると水抜きは完了です。
- すべての水抜き栓を元通りに閉め、給湯栓(シャワーなどを含む)と排水栓③を閉める。
- 屋内分電盤の貯湯ユニット用分岐ブレーカーを「切」にします。 **16ページ**
屋外防水コンセントから電源を取っている場合は、電源プラグを抜きます。
(貯湯ユニットの電源が切れます。)



排水栓③と排熱水抜き栓⑪⑫の操作は「災害時に貯湯タンクからお湯を取り出す」をご覧ください。

21・22ページ

再使用方法(貯湯ユニットの水張り)

- 水張り時には浴そうの循環アダプターから水が出ますので、浴そうの排水栓をはずしてください。
- 「貯湯ユニットの水抜き」を行っていない場合にリモコンに「260」を表示した場合は、原因(給水元栓が閉まっている・断水など)が直った後に5・6の操作を行ってください。
- 水張り時間は約20分間かかります。
- 水張り中は他の運転操作をしないでください。
- 排水栓と水抜き栓の位置などは「貯湯ユニットの水抜き」のイラストを参照してください。 **20ページ**

1. 配管カバーをはずして排水栓③が閉まっている、過圧逃し弁④・水フィルター⑤・すべての水抜き栓⑥～⑬・すべての給湯栓(シャワーなどを含む)が閉まっていることを確認してください。 **20ページ**
2. 屋内分電盤の貯湯ユニット用分岐ブレーカーを「入」にします。 **16ページ**
屋外防水コンセントから電源を取っている場合は、電源プラグを差し込みます。
(貯湯ユニットの電源が入ります。)
3. リモコンに「260」を表示します。
4. 給水元栓②を開けます。
5. 貯湯タンクに水を張ります。
(1) 台所リモコンのMENUスイッチを押す。
(2) 設定スイッチを押して「設定」を選択し、SETスイッチを押す。
(3) 設定スイッチを押して「時刻・その他設定」を選択し、SETスイッチを押す。
(4) 設定スイッチを押して「タンク水張り」を選択し、SETスイッチを押す。
(5) 「開始/停止」を表示したら、SETスイッチを押す。

リモコンに「00P」と「タンク水張り中」を表示します。
給水元栓②が充分開いていないと「00P」は表示しません。
ON/OFFスイッチが「ON」、台所リモコンに「暖房」が表示中もこの操作は受け付けません。
すべての暖房端末機の運転を停止してください。
この操作を行うと水張りが終了するまで暖房端末機のスイッチ以外は受け付けません。
また、スイッチを受け付けても水張りが終了するまで運転は行いません。
6. 「00P」が消灯し「ピーピーピーピー」と音がすると終了です。
7. 給湯栓を開け、水が安定して出てくることを確認した後、給湯栓を閉めます。
8. ガス栓①を開けます。
9. 配管カバーを元通りに取付けます。
10. 発電については、発電運転の設定を確認してください。(「リモコン操作説明編」の「発電する」参照)

災害時などに貯湯タンクからお湯を取出す

警告

- 排水用ホースから熱湯が出ることがありますので、やけどに注意してください。

- 断水時や地震などの災害時は、貯湯タンクのお湯(水)を生活用水として利用できます。
- 停電している場合は、停電前の運転状態により以降の操作を行ってもお湯(水)の出が悪い、または出ないことがあります。

災害時などに貯湯タンクからお湯を取出す

1 台所リモコンで暖房端末機の運転停止・予約解除をする

(「リモコン操作説明編」の「暖房する」参照)

台所リモコンで操作できない暖房端末機は暖房端末機の取扱説明書に従って運転停止と予約解除を行ってください。

2 ガス発電・給湯暖房機の全停止(不在停止)を行う

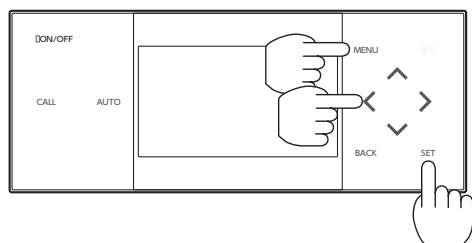
(「リモコン操作説明編」の「運転しないようにする」参照)

発電表示が点滅し発電はすぐに停止しますが、燃料電池ユニットはしばらく停止移行運転を続けます。停止移行運転が完了すると、発電表示が消灯します。

緊急の場合はすぐに「3」以降を行ってください。

停電時はこの操作を行う必要はありません。

1. 台所リモコンのMENUスイッチを押す。
2. 設定スイッチで「発電」を選択し、SETスイッチを押す。
3. 設定スイッチで「不在停止」を選択し、SETスイッチを押す。
4. 設定スイッチで「ON」を選択し、SETスイッチを2回押す。



3 屋内分電盤の貯湯ユニット用分岐ブレーカーを「切」にする 24ページ

ただし、緊急の場合はすぐに行ってください。

貯湯ユニットの電源を屋外防水コンセントから取っている場合は、電源プラグを抜いてください。

4 配管カバーをはずす 25ページ

5 給水元栓を閉める

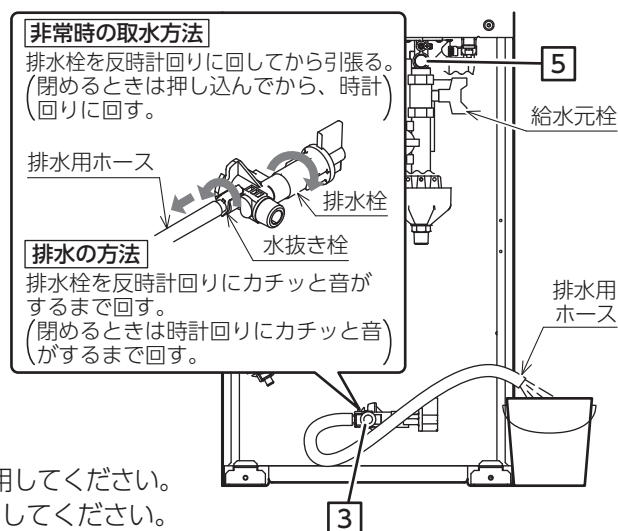
6 排水用ホースの先をバケツなどで受ける

7 排水栓③の水抜き栓を開け、水フィルター⑤をはずす

水抜き栓の開け方は右図を参照してください。

始めに湯あかなどが出ることがありますので、少し捨ててから使用してください。

貯湯タンク内のお湯が出ることがありますので、やけどに注意してください。



8 取水が終わったら排水栓③の水抜き栓を閉め、水フィルター⑤をつけて排水用ホースを元に戻す

水抜き栓の閉め方は、「水抜き栓の開け方」の逆の手順を行ってください。

お知らせ

●再度使用するとき

- ・「凍結のおそれがあるとき」の「再使用方法(貯湯ユニットの水張り)」に従って水張りを行ってください。 21ページ
- ・通電していない状態が24時間以上続いた場合は、現在時刻の設定を行ってください。(「リモコン操作説明編」の「時刻を設定する」の「日時設定」参照)

故障かな？と思ったら

●「リモコン操作説明編」の「故障かな？と思ったら」も参照してください。

安全装置

安全装置	はたらき
立消え安全装置	●使用中にバーナーの炎が消えた場合に自動的にガスの供給を停止します。
残火安全装置	●空だきなどにより熱交換器内の温度が異常に上昇した場合に自動的にガスの供給を停止します。
空だき防止装置	●給湯回路に一定量の水が流れないとバックアップ給湯器が燃焼しません。 ふろの循環を検知しないと追いだきしません。 ●暖房水タンクに一定量の水または不凍液が入っていないと暖房運転しません。
停電安全装置	●使用中に停電した場合に自動的にガスの供給を停止します。 再通電後は自動的に点火しません。
バックアップ給湯器過熱防止装置 (温度ヒューズ)	●貯湯ユニット内の温度が異常に上昇した場合に自動的にガスの供給を中止し、運転を停止します。
過電流防止装置	●万一内部や送風機の配線のショートなどで過電流が流れたときにヒューズが切れて運転を停止します。
過圧防止安全装置	●熱交換器や貯湯タンク内の圧力が上昇した場合に圧力を逃がします。
ファン回転検出装置	●送風機の回転数が一定数以外の場合にバックアップ給湯器を停止します。
漏電安全装置	●万一漏電したときに作動して自動的に運転を停止します。
沸騰防止装置	●高温のお湯が貯湯ユニットに給水された場合にバックアップ給湯器を燃焼しないようにします。
負圧防止安全装置	●断水したときに自動的に運転を停止します。 ●貯湯タンクが負圧になることを防ぎます。
凍結予防装置	●ポンプが貯湯ユニット内の水を循環させ、給湯・ふろ・暖房回路および配管の凍結を予防します。
水圧検知装置	●断水した場合に自動的に運転を停止します。

誤動作したときは

●万一雷や自動車無線などで誤動作したり、動かなくなったりしたときは次のいずれかの処置を行い、再度運転して異常がある場合は担当のメンテナンス会社にご連絡ください。

屋内分電盤の貯湯ユニット用分岐ブレーカーを「切」にし、約30秒後に再度「入」にする。または、電源プラグを抜き、約30秒後に再度差し込む。

故障かな？と思ったら

異常時の処置方法

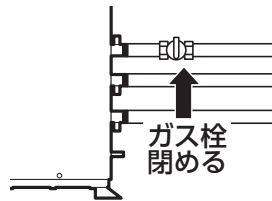
運転中に異常を感じたり、地震や火災などの緊急の場合は次の処置を行ってください。

この処置を行った場合は使用できません。

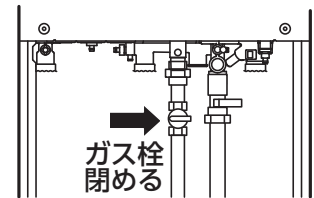
ガス漏れの場合は、絶対に火をつけたり、電源プラグの抜き差し、電気器具の「入・切」はしないでください。

1 ガス栓を閉める

配管カバーを取り付けている場合は、配管カバーを外してください。 **25ページ**

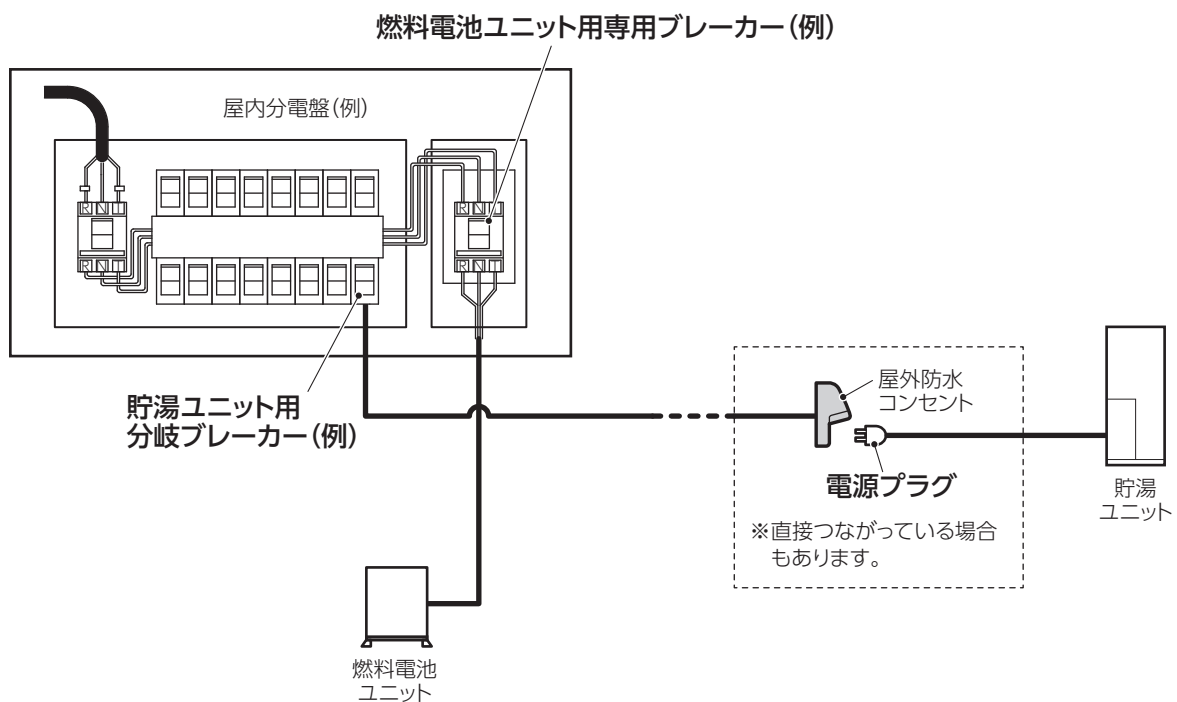


燃料電池ユニット



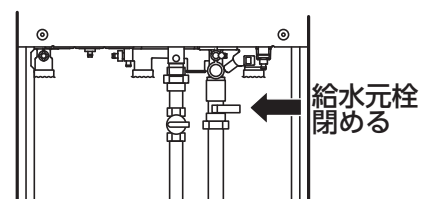
貯湯ユニット

2 燃料電池ユニット用専用ブレーカーと貯湯ユニット用分岐ブレーカーを「切」にする



貯湯ユニットの電源を屋外防水コンセントから取っている場合は、電源プラグを抜いてください。

3 給水元栓を閉める



貯湯ユニット

4 担当のメンテナンス会社に連絡する

長期間使用しない場合

- 48時間以上連続で使用しない場合は「ガス発電・給湯暖房機的全停止(不在停止)」を行ってください。
(「リモコン操作説明編」の「運転しないようにする」参照)

■燃料電池ユニットの水抜きについて

- 長期間にわたって燃料電池ユニットを使用しない場合は、水抜きが必要です。
水抜きが必要なときは、担当のメンテナンス会社またはもよりの東邦ガスへご連絡ください。
- 再使用時は担当のメンテナンス会社またはもよりの東邦ガスへご連絡ください。

■貯湯ユニット内の水を抜く方法

- 長期間にわたって貯湯ユニットを使用しない場合やブレーカーを切る場合は、「凍結のおそれがあるとき」の「貯湯ユニット内の水を抜く方法」に従って水抜きを行ってください。 **19・20ページ**
- 再使用時は「再使用方法(貯湯ユニットの水張り)」に従ってください。 **21ページ**
- 水抜きは配管カバーをはずして行い、終了後は取付けてください。

日常の点検・手入れのしかた

点検・手入れの際のご注意

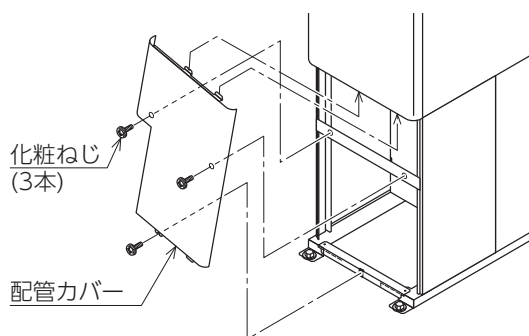
⚠ 注意

- 点検・手入れのときは手袋などの保護具を着用してください。けがの原因になることがあります。
- 金属部に充分注意してください。けがの原因になることがあります。
- 部品の分解・調整は絶対にしないでください。
- 異常がある場合は担当のメンテナンス会社にご連絡ください。

点検・手入れの準備 (貯湯ユニット)

配管カバーのはずしかた

配管カバーの化粧ねじ(3本)をはずして配管カバーを取りはずします。
点検・手入れが終わったら元通りに取付けてください。



イラストは配管カバーを右側に取付ける場合です。

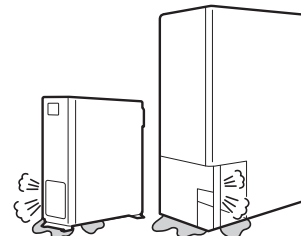
日常の点検・手入れのしかた

点検

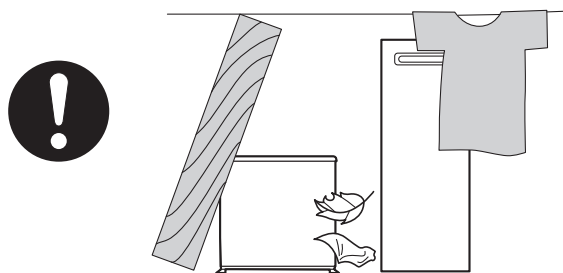
(日常)

ガス漏れ・水漏れ

燃料電池ユニット・貯湯ユニット・配管などからガス漏れや水漏れしていないことを確認してください。ガスが漏れていれば異臭がします。

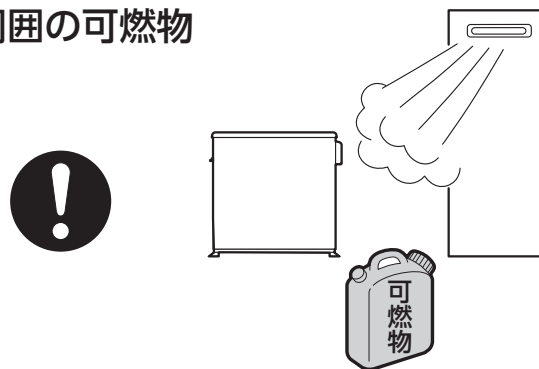


給気部や排気部およびその周囲



給気部や排気部がふさがれていないことを確認してください。

周囲の可燃物



燃料電池ユニットや貯湯ユニットおよび排気部の周囲に可燃物や危険物がないことを確認してください。

(1年に2～3回以上)

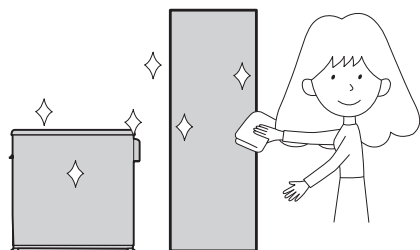
配管の点検

配管の水漏れ、保温材の破損がないことを確認してください。

手入れ

(適時に)

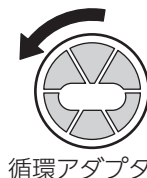
ほこり



燃料電池ユニットや貯湯ユニット外面にほこりがたまっていたり、汚れていたら、布またはスポンジに中性洗剤をつけてふきとってください。

フィルターの掃除

左に回してはまず



循環アダプター



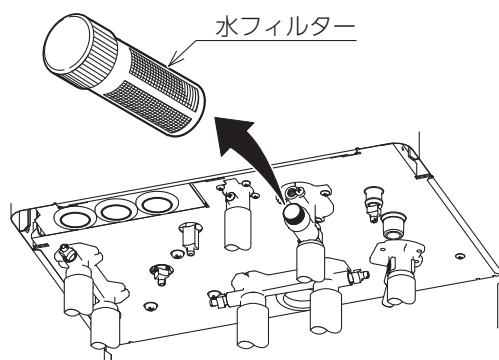
浴そうを掃除するときは、必ず循環アダプターもはずして歯ブラシなどでフィルターの汚れを掃除してください。ご使用時には必ず取付けてください。

水フィルターの掃除

1. ON/OFFスイッチを押して「OFF」にします。
2. 配管カバーをはずします。 **25ページ**
3. 給水元栓を閉めます。
4. 排水栓 **3** を開けて機器内部の圧力を抜き、排水栓 **3** を閉じます。 **19ページ**
5. 水フィルターをはずして掃除をしてください。
6. 元通りに水フィルターを取付け、給水元栓を開け、配管カバーを取付けます。

リモコンに「**260**」が表示されている場合は、「**再使用方法 (貯湯ユニットの水張り)**」の5・6の操作を行ってください。

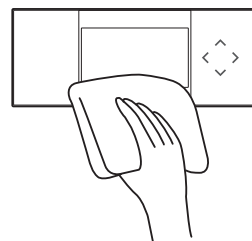
21ページ



底から見たイラストです。

リモコン

- ・水や化学ぞうきんなどは使わず、柔らかい布でからぶきしてください。
- ・ガソリン・ベンジン・シンナー・みがき粉・ガラスクリーナーなどは使用しないでください。印刷や塗装のはがれ、傷の原因となります。
- ・「画面設置」の「タッチスイッチ」を設定した後にお手入れをしてください。誤動作するおそれがあります。(「リモコン操作説明編」の「リモコンの設定を変更する」を参照)



日常の点検・手入れのしかた

(1年に2～3回程度)

貯湯ユニットのお手入れ(ユニット内給湯回路の洗浄)

貯湯タンクの水張りを行うことでユニット内給湯回路の洗浄が行えます。

燃料電池ユニットの運転中は行わないでください。

貯湯量表示が点灯していないときに行ってください。

1. 浴そうの排水栓をはずします。
2. 循環アダプターのフィルターをはずします。 **27 ページ**
3. 台所リモコンのON/OFFスイッチを押して「OFF」にします。
4. 貯湯タンクに水を張ります。
 - (1) 台所リモコンのMENUスイッチを押す。
 - (2) 設定スイッチを押して「設定」を選択し、SETスイッチを押す。
 - (3) 設定スイッチを押して「時刻・その他設定」を選択し、SETスイッチを押す。
 - (4) 設定スイッチを押して「タンク水張り」を選択し、SETスイッチを押す。
 - (5) 「開始/停止」を表示したら、SETスイッチを押す。

リモコンに「00P」と「タンク水張り中」を表示します。

ON/OFFスイッチが「OFF」でないと受け付けません。

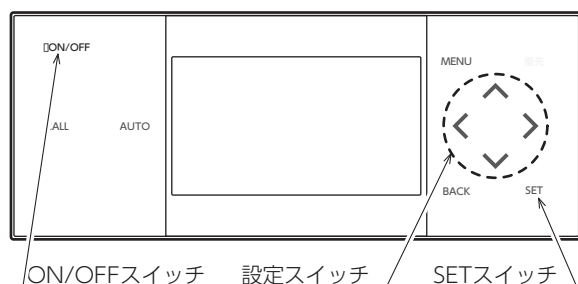
また、台所リモコンの「暖房」表示中も受け付けません。

すべての暖房端末機の運転を停止してください。

この操作を行うと水張りが終了するまで暖房端末機のスイッチ以外は受け付けません。

また、スイッチを受け付けても水張りが終了するまで運転は行いません。

5. 「00P」と「タンク水張り中」の表示が消灯し「ピーピーピーピー」と音がすると終了です。
循環アダプターのフィルターを元通りに取付けます。



(1年に1回程度)

貯湯ユニットのお手入れ(貯湯タンクの水の入れ替え)

●貯湯タンクの水抜き(約30分)

貯湯量表示が点灯していないときに行ってください。

燃料電池ユニットの運転中は行わないでください。

1. 「ガス発電・給湯暖房機の全停止(不在停止)」に従って運転を停止してください。

(「リモコン操作説明編」の「運転しないようにする」参照)

2. 「貯湯ユニット内の水を抜く方法」に従って水抜きを行ってください。 **19・20 ページ**

●貯湯タンクの水張り(約15分)

1. 「再使用方法(貯湯ユニットの水張り)」に従って水張りを行ってください。 **21 ページ**

2. 「ガス発電・給湯暖房機の全停止(不在停止)」に従って運転を再開してください。

(「リモコン操作説明編」の「運転しないようにする」参照)

定期点検について

- 点検内容は予告なく変更になることがあります。
- 学習制御機能で自動的に最適な発電運転を行いますので、不在停止以外の操作はしないでください。
また、頻繁な起動や停止操作は機器の寿命を低下させる原因になりますので行わないでください。
- 燃料電池ユニットの性能を維持し、安全にご使用いただくためにはフィルター交換などの定期点検(5.2年ごと)が必要です。
- 定期点検はお客さま自身で行わないでください。担当のメンテナンス会社に連絡してください。

定期点検項目

項 目	周期
パッケージ換気フィルターの交換	5.2年
空気フィルターエレメントの交換	5.2年
イオン交換樹脂ボトルの交換	5.2年

※点検内容は予告なく変更になることがあります。

- 燃料電池ユニットは点検時期を超過すると発電を停止します。
貯湯ユニットのリモコンに「発電ユニット点検」を表示したときは、担当のメンテナンス会社に連絡してください。

- ・「**発電ユニット点検 近**」が点滅
もうすぐ点検時期であることのお知らせです。



- ・「**発電ユニット点検 要**」が点滅
点検時期になったお知らせです。



- ・「**05F 発電ユニット点検 過**」が点滅
点検時期を超過したことのお知らせです。
燃料電池ユニットは運転しません。



- 定期点検のおすすめ(有料)
給水用具(逆流防止装置)については、(社)日本水道協会発行の「給水用具の維持管理指針」に示されている定期点検の実施をおすすめします。時期は4~6年に1回程度をおすすめします。点検は販売店または、もよりの東邦ガスにご相談ください。

日常の点検・手入れのしかた

部品交換について

●故障したままで使用しないでください。爆発・ガス漏れ・不完全燃焼の原因になります。

●故障して修理や部品交換が必要なときは、担当のメンテナンス会社に依頼してください。

仕 様

■燃料電池ユニット

項	目	記 入 内 容
品	名	NQ-0716ARS-K
型	式	TM1-AG-NF
設	置	屋外式据置形・壁面近接設置形
ガ	ス	都市ガス 13A
電	気	単相三線式 AC 100V/200V 60Hz
外	形	高さ1,000mm 幅780mm 奥行300mm (高さは脚を含む)
重	量	86kg (満水時92kg)
消	費	電力 (最 大) 1.1kW (起動時) 0.25kW (待機時凍結予防運転時)
ガ	ス	消 費 量 (最 大) 2.0kW (定格運転時)
定	格	出 力 700W
最	低	出 力 250W
発	電	効 率 (定 格) 39%(※1)
総	合	効 率 (定 格) 95%(※1)
騒	音	37dB (A) 以下 (無響室内、全面1m)
起	動	時 間 約60分 (発電まで)
運	転	モ ー ド 全自動
系	統	電 力 と の 関 係 逆潮なし系統連系ガイドライン準拠 (無償逆潮なし)

接続貯湯ユニット品名	NQZT-C16ARS-AWC
------------	-----------------

※ 1 低位発熱量基準 (LHV) による。

■貯湯ユニット

項 目			記 入 内 容
名 称	品 名		NQZT-C16ARS-AWC〔貯湯ユニット〕
	型 式 名		FCG-204-D
	設 置 方 式		屋外式据置形・壁面近接設置形
	給 排 気 方 式		強制排気式
	外 形 寸 法		高さ 1,760mm 幅 750mm 奥行 440mm
	重 量		90kg (満水時約 293kg)
	接 続	ガ ス	R1/2 (15A)
		給 水	R3/4 (20A)
		給 湯	R3/4 (20A)
		ふ ろ (往・戻)	CCHM(QF16) ジョイント
		暖 房 (往・戻)	CCHM(QF16) ジョイント
		排 熱 (高・低)	R1/2 (15A)
		排 水	R1/2 (15A)
		オ ー バ ー フ ロ ー	R1/2 (15A)
		電 源	AC100V 50Hz/60Hz
	信 号 線	2 芯	
	消費電力	最 大 時	239W (給湯＋ふろ＋暖房)
凍 結 予 防 ヒ ー タ ー		125W	
待 機 時 (台所・浴室リモコン取付時)		ON/OFF スイッチ〔ON〕：5W ON/OFF スイッチ〔OFF〕：7W	
運 転 制 御 仕 様	点 火 方 式		連続スパーク点火式
	給湯・お湯はり	能 力	システム給湯能力：1.22～41.9kW (0.7～24号) バックアップ給湯器能力：3.49～41.9kW (2.0～24号)
		給 湯 時 最 大 出 湯 量	24L/min (貯湯タンク含む)
		最 低 作 動 流 量	ON：2.7L/min OFF：1.5L/min
		減 圧 弁 圧 力	370kPa (3.78kgf/cm ²)
	追 っ だ き 暖 房	能 力	10.0kW (8,600kcal/h)
		方 式	強制循環式
能 力		14.0kW (12,000kcal/h)〔75℃時〕	
安 全 装 置			立消え安全装置・残火安全装置・空だき防止装置・停電安全装置 バックアップ給湯器過熱防止装置 (温度ヒューズ)・過電流防止装置・過圧防止安全装置 ファン回転検出装置・漏電安全装置・沸騰防止装置・負圧防止安全装置・凍結予防装置
付 属 部 品			取扱説明書・工事説明書・コネクタ (コード) 一式

接続燃料電池ユニット品名	TM1-AG-NF
--------------	-----------

使 用 ガ ス		ガス消費量 (※1)		
		最大	最小 (参考値)	ふろ
都 市 ガ ス	1 3 A	44.1kW (37,900kcal/h)	4.5kW (3,900kcal/h)	12.6kW (10,800kcal/h)

※1 ガス消費量はバックアップ給湯器の消費量です。

アフターサービス

修理を依頼するとき

修理を依頼する前にこの説明書(23・24ページ)と「リモコン操作説明編」の「故障かな?と思ったら」の項を見て、もう一度確認してください。不具合があるときはお客様ご自身で修理せず、担当のメンテナンス会社にご連絡ください。

●アフターサービスをお申し付けいただくときは、次のことをお知らせください。

1. 形 式 名……………TM1-AG-NF
(燃料電池ユニット)
2. 形 式 名……………FCG-204-D
(貯湯ユニット)
3. ガ ス 種……………都市ガス 13A
4. お買い上げ年月日
5. 故障の状況……………できるだけ詳しく(故障表示など)
6. ご住所、お名前、電話番号
7. 訪問ご希望日

リモコン表示画面



保証について

- この機器にはフルサポート証がついています。
必ず必要事項が記入されていることを確認してください。
- フルサポート証の内容をよくお読みになった後は大切に保管してください。
- 無料修理期間経過後の故障修理については、修理によって機能が維持できる場合、有料で修理いたします。

転居または機器を移設・廃棄するとき

- 転居する場合は販売店またはもよりの東邦ガスにご相談ください。
- 移設はお客様ご自身で行わず、移設先のガス会社、販売店に依頼してください。
- 移設先のガス種によっては使用できない場合があります。
- 廃棄はお客様ご自身で行わず、販売店またはもよりの東邦ガスにご相談ください。

補修用性能部品について

補修用性能部品の保有期間は、この製品の製造打ち切り後10年です

- 性能部品とは製品の機能を維持するために必要な部品です。

⚠ 警告



ガスくさいときは、ガス栓を閉め窓を全開にして(火気に注意して)東邦ガスにご連絡ください。

お客様各位

エネファームをご使用のお客様へ

廃棄に関するお願い

下記の事項を必ずお守りください。



注意



禁止

お客様自身で解体・廃棄をしない

(思わぬ事故などの原因)

→ 解体・廃棄は、お買い上げの販売店、メンテナンス店、またはガス事業者にご連絡ください。

この注意書は、取扱説明書と一緒に必ず保管してください。